

平成25年度第1回図書館協議会次第

日時：平成26年2月25日(火)

10:30 ~ 12:00

場所：遊学館 第2研修室

1 開 会

2 主催者あいさつ

山形県教育庁文化財・生涯学習課長

山形県立図書館長

3 委員紹介

4 委員長選出

5 議 事

(1) 県立図書館の将来のあり方について

(現状報告、全国公共図書館研究集会報告を含め)

(2) その他

6 閉 会

県立図書館協議会席次表

(遊学館 3階 第2研修室)

佐多 不二男 委員

鈴木 雅史 委員

沼野 慈 委員

門脇 史恵 委員

新藤 透 委員

報道
関係
席

後藤
補佐

山川
課長

斎藤
館長

山田
副館長

松田
主事

阿部
主査

渡部
主幹

北川
主幹

傍
聴
席

鎌戸
調査相談専門員

山中
資料管理専門員

片桐
運営企画専門員

鈴木
資料整備専門員

傍
聴
受
付

高橋
総務主査

伊藤
主事

平成25年度第1回図書館協議会出席者名簿

《委員》

(敬称略)

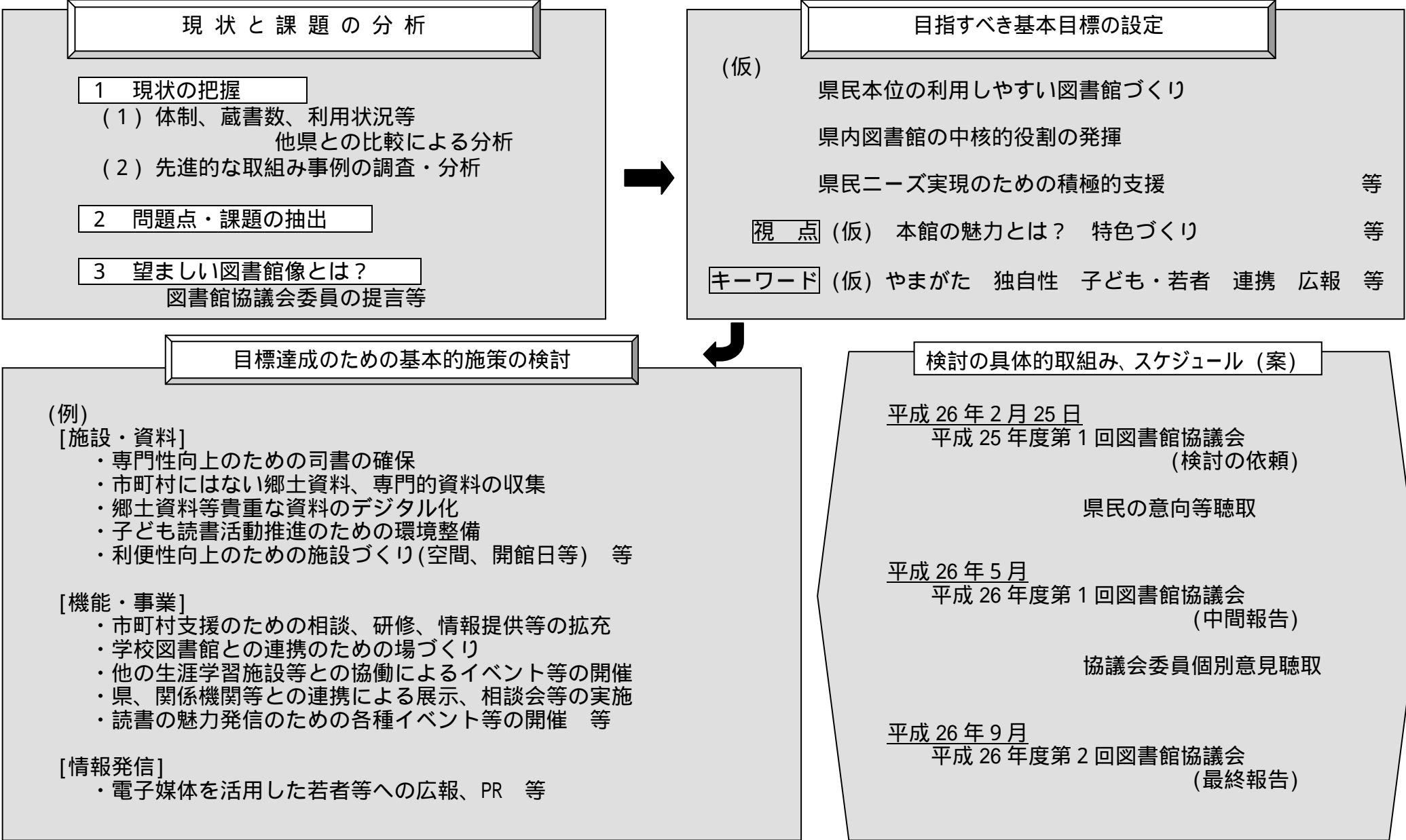
氏名	役職	備考
大宮 とき子	山形県学校図書館連絡協議会副会長 (山形市立千歳小学校長)	新任 (欠席)
門脇 史恵	山形県高等学校文化連盟事務局長 (山形県立山形北高等学校教諭)	新任
佐多 不二男	東北文教大学教授	再任
佐藤 晶子	元月刊「SPOON」編集長	再任 (欠席)
新藤 透	山形県立米沢女子短期大学准教授 (日本図書館情報学会所属)	新任
鈴木 雅史	山形新聞社報道部副部長	再任
沼野 慈	特定非営利活動法人NPOもがみ理事長	再任

《主催者・事務局》

氏名	所属・職名
山川 秀秋	教育庁文化財・生涯学習課長
後藤 健二	同 課長補佐(企画調整担当)
阿部 浩明	同 生涯学習振興室社会教育主査
松田 春菜	同 主事
斎藤 敏彦	県立図書館長
山田 茂雄	同 副館長(兼)総務課長
渡部 健次	同 主幹(兼)経営課長
北川 実	同 主幹(兼)企画課長
山中 英一	同 経営課資料管理専門員
鎌戸 雅之	同 経営課調査相談専門員
片桐 利章	同 企画課運営企画専門員
鈴木 正剛	同 企画課資料整備専門員

県立図書館の将来のあり方の検討について
～ 県民に求められる図書館づくりの推進 ～

平成 26 年 2 月
図書館協議会資料



東北各県県立図書館の状況

県名	蔵書数 (千冊)	入館者数 (千人)	1日当たり 数(人)	個人貸出 数(千点)	人口1人 当たり(点)	正職員の 司書数(人)	閉館日	特記事項
青森	861	412	1,200	323	0.23	9	毎月第4木曜日	・職員による学校図書館アシスト事業 ・高校生の子ども読書活動アシスト事業
岩手	692	508	1,500	279	0.21	3	毎月末(土日祝日 の場合前日)	・盛岡駅前であり利用が至便 ・運営を株式会社に委託(全国唯一)
宮城	1,028	379	1,410	685	0.30	17	月曜日(祝日の場 合翌日)	・震災資料の収集展示 ・市町村立図書館への震災復興支援
秋田	789	455	1,380	418	0.38	14	月の初日(土日祝 日の場合翌日)	・「打って出る司書」による図書館支援 ・関係機関との連携によるビジネス支援
山形	615	203	690	191	0.16	1	月曜日、第3日曜 日	・文教地区にある
福島	875	169	600	135	0.07	20	月曜日、第1木曜 日	・震災地域への復興ライブラリー出張展示 ・震災地域資料の収集展示

山形県と人口規模近似県立図書館の状況

県名	蔵書数 (千冊)	入館者数 (千人)	1日当たり 数(人)	個人貸出 数(千点)	人口1人 当たり(点)	正職員の 司書数(人)	閉館日	特記事項
石川	773	242	800	156	0.14	15	毎月末(土日の場 合金曜日)	・図書館活用講座(利用促進のため) ・ミニ読書会、音読サロン
大分	1,105	589	1,980	1,079	0.90	11	第1,3,5月曜日 (祝日の場合翌日)	・歴史資料館(先哲史料館)、公文書館と併設 ・貸出点数全国2位
宮崎	630	507	1,750	327	0.29	5	月曜日(祝日の場 合翌日)	・県政重要施策情報発信事業(行政との連携) ・レフェラルサービス(他機関等の紹介)

資料：日本図書館協会ほか、蔵書数＝平成24年3月末現在、入館者数及び個人貸出点数＝平成24年度実績、司書数＝平成25年4月現在
年未年始及び資料整備期間(蔵書点検期間)を除く

全国県立図書館の先進的取組み事例の紹介

<p>[優良事例として文部科学省が紹介]</p> <p>鳥取県立図書館</p>	<p>全国では早い時期(平成16年度～)に「ビジネス支援事業」を本格的に実施 鳥取県は人口最下位、脆弱な財政基盤であり、地域経済発展に貢献するため、「県立図書館として何が出来るか」を県産業担当部局、産業界から有識者を招いて検討会を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事に役立つ資料の収集・提供、インターネットにおける経済、経営、法律等の商用データベースの導入 ・ セミナー、講座の開催 (県担当部局、商工会議所、商工会、その他関係団体と連携) 経営者向け、新規就農者向け、起業相談、特許、新分野進出等 ・ 県内産業の特産品を図書館で紹介、展示 (図書館をショールームとして活用) ・ 県内高校図書館を活用し、県内産業技術の巡回展示、産業界からの出前授業のコーディネート等を実施 「県庁内図書室」を開設し、県政重要施策に役立つテーマ別資料のリストを紹介
<p>[利用者数、貸出数日本一]</p> <p>岡山県立図書館</p>	<p>部門に特化したスペシャリストの存在 人文、児童、郷土、社会、産業、自然の6つのカウンターにその部門に精通した司書を配置 ニュースにすばやく反応する展示コーナー 2020東京オリンピックの開催決定、イプシロンロケットの打上げ、文豪の死亡等にすばやく反応し、翌日には、関連資料、著作物を展示コーナーに設置 新しいシステムの導入 「自動化書庫」を導入し、書庫にある資料も5分以内に貸出可能 新刊書は7割、児童書は全て購入 (24年度 資料購入費 1億7千万円) 山形県の約7倍 県民参加型「デジタル岡山大百科」の作成 郷土資料をデジタル化して閲覧しているが、貴重な発見をした県民からの資料も百科に掲載 閉館日 毎週月曜日(但し月曜が祝日の場合は翌日が閉館日)、年末年始及び資料整備期間</p>
<p>[東北で評価の高い図書館]</p> <p>秋田県立図書館</p>	<p>秋田県デジタルアーカイブシステムの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館のほか、文学資料館、近代美術館、博物館、公文書館、埋蔵文化財センターの県の6機関が参加 ・ 郷土資料、歴史上の人物、民話(音声)等2,000件以上と郷土関係雑誌等の索引約44万件をデータ化 独自資料の電子書籍化 郷土資料、小松左京直筆原稿、「歴史読本」等の雑誌を電子化しスマホで閲覧可能 <p>企業、関係団体との連携による取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雑誌スポンサー制度 企業から月刊誌等の提供を受け、企業情報とともに雑誌書架に展示 ・ ビジネス支援 全国に先駆けて(平成13年～)実施、県、関係機関との連携により情報交換、セミナー、異業種交流会等の開催、レファレンス等を通じてできた、成果品を展示、成功例を情報として蓄積、活用 「打って出る司書」活動 (司書が市町村や学校の図書館に出向き、様々な支援を実施) ・ 学校図書館は担当職員が不足、多忙等であることから、直接訪問し図書館内外の環境改善による活性化を支援 ・ 市町村図書館に出向き、テーマに応じた研修会を開催 ・ 年間延べ240件の訪問等を目標に積極的に司書が支援を展開

平成25年度県立図書館の主な取組みについて

全国公共図書館研究集会(サービス部門 総合・経営部門)の開催

平成25年10月24日～25日、村山市総合文化複合施設「甌葉プラザ」において、全国各地から370名を超す参加者を得て開催した。

企画展の開催

年間計画に基づき、次の8つの企画展を開催するとともに、青少年に向けた「ヤングアダルトおすすめ本」のコーナーを毎月資料を入れ替えながら開設した。

<企画展>子ども読書週間企画展(一般、児童)、マツリとカミサマ(児童)、山形の農と食を考える(一般)、なつやすみ特集(児童)、敬老の日あなたに勧めたいこの1冊(一般)、秋の読書週間企画展(一般)、星と月(児童)、新しい旅立ちに贈る本(一般)

「手づくり絵本コンクール」の開催

県内4地区で109名の参加を得て講習会を開催するとともに、コンクールにおいて92点の応募作品の中から、最優秀賞を含め、15点の入選作を選んだ。

また、今年度初めて、入選作の巡回展を実施し、中山町、新庄市、鶴岡市及び米沢市の各図書館において開催した。

《改善のための取組み》

入りやすい空間・広い見通しの確保と展示スペースの拡充のため、ブラウジングコーナーを中心に、書架や椅子、机などのレイアウトを変更した。

時宜を得たテーマに応じた展示や、遊学館等のイベントと連携した展示を随時行うとともに、闘病記などを含めた「医療情報コーナー」や「山形の作家コーナー」を新たに開設した。

(例)最上義光没後400年記念協賛展示、冬季オリンピック関連本の展示、吉野弘氏の著作物の展示等15件以上

山形市内の公立高校を訪問して、高校生の図書貸出利用カードの新規登録を推進し、高校生の不読率低減に努めた。

企画展示や新たなコーナー設置等について、図書館のHPだけでなく県のHPを活用して広報に努めた(件数20以上)。

1回当たりの資料の貸出制限を3週間6冊から、3週間10冊に緩和することとした。

(システムの関係で26年5月から実施)